

2 愛荘町観光振興計画（前回計画）の評価

前回計画である愛荘町観光振興計画〔2015年度（平成27年度）～2019年度（平成31年度）〕で設定した取組について、進捗状況を整理します。

評価区分

◎：計画より早く進んでいる ○：計画どおり進んでいる △：計画より遅れている

（1）やさしさと触れ合える “心ふれあう まち・愛荘”

①観光サービス機能の充実【評価：△】

取組目標	評価
●観光案内機能の充実	○
●交通アクセス機能の充実	△
●観光利便施設の整備	△
●自転車利用による観光振興の推進	○

（評価の理由）

- ・町内観光施設において、心からのおもてなしによる観光情報の発信やイベント等が実施できているものの、交通アクセスの整備や施設整備等ハード面の整備が進んでいないのが現状。レンタサイクルについては、広域連携により新たなサイクリングコースを開発しており、今後自転車利用を推進するために広報宣伝方法の工夫が必要。

②ホスピタリティ（心からのおもてなし）の向上【評価：○】

取組目標	評価
●町民の観光意識の向上	○
●質の高い観光ホスピタリティの学びの場づくり	△
●観光従事者の育成	○
●観光ボランティアガイド協会の充実	○

（評価の理由）

- ・住民に対して、観光まちづくりをテーマとしたフォーラムの開催や町広報紙を通じて観光資源の魅力等の訴求に努めた。また、観光協会や観光ボランティアガイド協会では積極的な研修に努められ、観光ボランティアガイド協会では新規ガイドを獲得するための取組も開始されるなど体制強化に尽力されている。

③国際観光の推進【評価：△】

取組目標	評価
●外国人観光客への配慮	△
●ホームステイ等の推進	△

（評価の理由）

- ・今後の観光市場を考えた際、外国人観光客の受入は取り組まなければならないと考えているが、現状推進できていない。まずは基本方針にも示している考え方をもとに観光客の受入体制の整備を進め、推進できるところから検討していきたい。

(2) うるおいとやすらぎを味わえる “心やすらぐ まち・愛荘”**①美観のまち創出【評価：△】**

取組目標	評価
●まち歩きが似合うまちづくり	△
●景観に配慮したまち並みの整備	△
●環境美化推進のまち	○

(評価の理由)

- ・各集落等による美化活動は積極的に展開いただいているが、景観やまち歩きに配慮したまち並みの形成には至っていない。

②観光資源の保全・活用【評価：○】

取組目標	評価
●まちじゅうミュージアム構想の実現	△
●交流・体験型観光の推進	○
●グルメ観光の推進	△
●四季を彩るイベントの振興	◎
●文化イベントの振興	○

(評価の理由)

- ・各種団体の尽力により四季を代表するイベントが実施されており、魅力の訴求につながっている。また、各観光事業者によって交流・体験型観光の推進に取り組まれているが、賑わいは一時的、局所的になっており、今後は観光資源同士のネットワーク化、新たな土産品の開発も含めた魅力的な周遊ルートの開発が必要である。

(3) 観光のまち愛荘(相性のよい)を目指し、“歴史・文化の風を発信する まち・愛荘”**①観光振興のシステムづくり【評価：△】**

取組目標	評価
●指定管理者との連携	○
●NPO等の育成と連携	△
●観光関係団体の組織体制の充実	△
●地区イベントの育成	○

(評価の理由)

- ・町内観光施設については、指定管理者制度を導入することで指定管理者の創意工夫による施設運営が図られている。一方、本計画の推進体制の整備は着手できておらず、新たな計画策定を機に連携体制の強化を図る必要がある。

②情報提供機能の充実【評価：△】

取組目標	評価
●インターネット等を活用した観光情報提供システムの充実	△

(評価の理由)

- ・旅行を計画する際の情報入手先としてインターネットやSNSは上位を占めているが、現状更新頻度が低い状況である。今後は、掲載写真のクオリティを上げ、更新頻度を高め旬な情報を提供するなど情報発信強化に取り組まなければならない。

③観光宣伝の充実【評価：△】

取組目標	評価
●マスメディアを利用した観光宣伝の推進	△
●映画ロケ・マスコミ等を利用したイメージ戦略	△
●ブランドイメージ戦略	△

(評価の理由)

- ・映画やテレビ番組の誘致については、つながりのある滋賀ロケーションオフィス等を通じて情報発信しているが、効果的な誘致にはつながっておらず、イメージ戦略等も含めて今後検討していく必要がある。

④観光都市機能の形成【評価：○】

取組目標	評価
●周遊ルート、広域周遊ルートの設定	○
●スポーツイベントの誘致・開催	○

(評価の理由)

- ・湖東地域等周辺地域と連携して、広域サイクリングルートの開発や着地型ツアーの開催を通じたモデルコースの造成に着手している。また、滋賀国スポ・障スポでのアーチェリー競技の会場が本町に誘致予定であるなど、今後の地域活性化と観光面での連携が期待できる。

【今後の課題】

個々のテーマの評価を踏まえ、町全体のおもてなし機運の醸成や観光に関わる関係団体の連携体制の強化・ネットワーク化、ターゲットを明確にしたインターネットやSNSを活用した情報発信強化、オリジナリティのある着地型観光の推進等に取り組まなければなりません。

なお、観光客の受入体制の整備と同時並行で、国際観光の推進についても検討していく必要があります。

■目標

指標	目標値	実績値	評価
愛荘町観光入込客数（延べ）	2014年（平成26年） 335,800人	2014年（平成26年） 335,800人	△
	↓	↓	
	2019年（平成31年） 460,000人	2018年（平成30年） 405,000人	
	【124,200人増】 【伸び率：+37.0%】	【69,200人増】 【伸び率：+20.6%】	

【今後の課題】

目標値には届かなかったものの、毎年着実に観光入込客数を伸ばしています。今後も継続的に伸ばしていくためには、オリジナリティのある着地型観光の推進と、観光資源同士のネットワーク化により来訪者に長く滞在してもらう仕組みづくりが必須です。